

平成30年度 学 校 評 価 書

大津市立石山小学校

大津市の6つのキーワード

1. 主体的・対話的で深い学び 2. 道徳教育の充実 3. 体力づくり 4. 指導改善(組織的・計画的) 5. 育ちと学びを支える連携 6. 組織的体制の充実

学校目標

「明朗 健康 自主自立」

今年度の重点目標

1. 基礎学力を確実に定着させる 2. 人間関係形成力を育成する 3. 運動習慣を育成する 4. ふるさと石山を醸成する

大項目	中項目	小項目	自己評価		現況	学校関係者評価	協力者会議のご意見
			小項目の平均	中項目の評価			
い主 学体 び的 ・ 対 話 的 で 深	学級・学年づくり	学級目標を設け、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践しているか	2.6	2.4	年間を通じて、全学級で「ふわふわ言葉」集めを行い、思いやりのある温かい雰囲気の中、学級集団づくりを行った。毎学期、FBC(ふわふわ言葉)がいろいろなBESTなCLASS賞の発表も行い、子どもの意識を高めた。市の学習定着プログラムを実施し、ステップアップ教室の実施や社会福祉協議会の寺子屋とも連携し、基礎学力の向上を図った。また、授業の中に話し合い活動を位置づけ、コミュニケーション力の育成に努めている。	2.9	・この何年か寺子屋にお手伝いで参加して、子ども達が熱心に学習し取り組む姿に感心している。子ども主体の授業、楽しい授業など、先生達の工夫が光っていた。 ・子どもが自ら学びたいと思い、考えられる姿勢づくり、教師の一方的ではない学習環境の工夫がされていた。 ・分かりやすさという点で「ふわふわ言葉」は大切。子どもが自分の発する言葉を振り返ることで、言葉を大切にできるようになる。「ふわふわ言葉」も発達によって捉え方が深まっていくだろう。 ・基礎基本を大切にしたり取り組みが行われている。学級・学年づくりもいねいに行われており、基本的な生活習慣が定着してきている。
		基本的な生活習慣と学習のきまりの定着を図ることができたか	2.3				
		心の居場所づくりができていくか	2.3				
	基礎・基本の習得	学習習慣や基礎・基本的な学習内容を確実に身に付けさせているか	2.3	2.3			
		コミュニケーション能力の育成に努めているか	2.4				
		家庭学習を習慣化させることで、確かな学力の定着と向上を図れているか	2.3				
道 徳 教 育 の 充 実	資料の整備、 充実と活用	生命を尊重する心や人権尊重などの道徳的実践力を育てる活動の実施に努めているか	2.5	2.2	学習指導要領改訂により、特別な教科道徳となったことをふまえて、共通理解・共通実践で子どもたちの心に響く実践(授業)を積み重ねてきた。道徳教育推進教員を中心に評価についての研修を実施した。地域のご協力の下、町探検やお店調べ、こいのぼり制作、昔の暮らしなど、充実した体験学習を実施することができた。今後も地域の人・もの・自然とのふれあいを大切にしたり教育活動を推進し、ふるさと石山の意識を醸成していく。	2.5	・こいのぼり制作も10年を超えて定着している。子ども達も、幼保から続く行事のように感じており、うれしく思う。 ・実体験を大切にしたり工夫している。全てではないが、経験不足による知的なゆっくりにさ抱えている子もいるので、そういう子達のために体験を大切にしたい。 ・ふるさと石山を愛する子どもという願いを大切に、地域の自然や人材、文化を生かした教育の工夫をしている。保幼小中へと繋がるように、取り組みを考えていけるのではないかと。 ・歴史ある伝統の町石山を大切にしながら、道徳の授業にも取り入れ、「あいさつ」「礼儀」なども含め取り組んでほしい。
		道徳教育推進教員を中心として、道徳の授業研究や資料の開発・交流を行っているか	2.0				
		児童の感性や言葉の力を育む読書の推進が図れたか	2.2				
	体験活動 (感動体験)	地域資源の教材化や人材活用・外部講師の招聘などによる体験活動の充実が図られているか	2.2	2.2			
		活動前・中・後の指導の充実が図れたか	2.3				
		豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力の基盤、子どもの成長の糧として役割が果たしているか	2.1				
体 力 づ く り	体力づくりの 取り組みと工夫	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	2.4	2.4	体育の授業だけでなく、休み時間の外遊びの奨励や毎日の体育の宿題の取組により、児童の体力向上を図った。ラダー運動も継続して行い、ラダー大会を開催して児童の意欲の向上が見られた。食育では、給食時間の放送で児童の委員会による活発な活動が行われた。児童のアレルギーや病気については、保護者と密接に連絡を取りながら、職員間で情報を共有し、児童の健康・安全を守る体制づくりを行った。	2.8	・子ども達の評価では「朝食を食べ、規則正しく生活できている」が低かったが、保護者の評価は高い方でした。この差はなぜか。 ・ラダー運動を中心に様々な場面で体力作りに取り組みしており、継続性の大切さを感じる。 ・今後も、一人ひとりの様子を大切にしたり取り組んでほしい。
		進んで自分の体を鍛えようとする環境づくりができたか(体育の宿題・ラダー等)	2.4				
		運動の楽しさを味わい、進んで運動に親む児童が増えたか	2.3				
	食育・保健・ 安全指導	食に対する正しい知識や関心の育成が図られているか	2.3	2.2			
		健康な生活の習慣化を行うことができたか	2.0				
		平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導の充実、徹底が図られているか	2.2				
(指 導 改 善 ・ 計 画 的)	校内研究	学びの自覚を促し、主体的な学びを生み出す授業改善ができたか	2.4	2.3	児童が協働しながら主体的に学びを深める授業づくりを目指し、各学年で研究授業を行った。主体的な学びを生み出す授業について、児童の話し合い活動を重視した研究会を行い授業改善に努めた。学年の子どもたちを多くの教員で見ているという意識で教科担任制や少人数学習、入り授業を行い、協力的な指導を充実させた。デジタル教科書やコンピュータ室など、ICT機器の活用も定着している。今後は授業でのタブレットの効果的な活用について研修を行っていく必要がある。	2.8	・協働学習を主体としながら学ぶ心の育ちが感じられた。 ・ICTを上手に活用し、また子ども達も使いこなすことにより、時代に合った授業が進められていると感じる。 ・小学生からタブレット等を使っている、非常に進んだ授業だと思った。 ・様々な課題や家庭背景がある子どもがいる中で、働き方改革は「絵に描いたもち」になるのでは・・・と思う。
		ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善に努めたか	2.2				
		指導力向上のために校内研究や校外での研修会への参加を積極的にしているか	2.3				
	学年担任制	教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長が見られたか	2.3	2.2			
		職員のチーム意識が高まり、多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導が充実できたか	2.3				
		教員の専門性や持ち味を生かし、質の高い指導ができたか	2.1				
		校務の効率化など多忙化解消の取組と教育活動の質の改善ができたか	1.9	1.9			
支 育 ち と 連 携 を	家庭・地域との連携	保護者の子育てに対する支援や悩みを聞く教育相談を実施しているか	2.5	2.5	子どものよりよい成長を願う共通した思いを土台として、生徒指導、いじめ対応、教育相談、PTA活動等で保護者とのつながりを大切にしてきた。保護者アンケートでは、よい評価をいただいている。今後保護者の不安や相談に誠実に対応していきたい。保幼小中の連絡を密接に取り合い、縦のつながりを意識した課題解決やスムーズな接続ができるよう努めた。合同の研修会も行った。職員同士の交流をさらに広げていきたい。	2.9	・保護者を対象にオープンスクール(学校内を自由に見て回る)を実施してはどうか。 ・私たち地域の人間とのつながりを大事にしたいと思っていると思う。 ・保幼小中が繋がっていることに安心感がある。 ・校園、地域の横のつながりを日々感じている。地域で子どもを育てる風土を残し続けていければと思う。 ・ismのもと、校種間の連携ができていくと感じる。今後さらに、発達、学びの内容についてもつないでいけるよう、教師間の学び合いを深めていけるとよい。 ・地域、保幼小中の連携がしっかりできている。
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会を実施しているか	2.5				
		保護者(PTA)・地域と連携を取りながら、安心・安全な学校作りを目指しているか	2.5				
	保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業等実施できているか	2.5	2.5			
		校種間の定期的な連絡会や合同研修会を実施しているか	2.6				
		校種間の授業公開や一貫的なカリキュラム研究・体力向上の取り組みなどを積極的に行っているか	2.4				
充 組 実 的 体 制 の	生徒指導・教育相談機能 の確立	石山小のあいことばを共通理解、共通実践できているか	2.7	2.7	生徒指導、いじめ対策、教育相談等の担当者、管理職、養護教諭がそれぞれの立場で児童や保護者と関わり、そこで得た情報を担任を含め全体で共有し対応してきた。チームとして子ども一人ひとりの課題に迅速且つていねいに対応できた。支援を必要とする子について、関係機関と連携し支援方法を考え、関係者で共通理解していくことに努めた。保護者との情報交換やきめ細かい支援を引き続き心がけていきたい。	2.9	・課題の多い地域にもかかわらず、学校・教室が落ち着き、良いムードなのは組織づくりに力を入れている証と思う。 ・一人ひとりに応じていねいな子どもの指導がされていると感じた。 ・学校内の連携や地域・校種間の連携もできており、子ども・保護者を支える支援体制が整っている。 ・サポーター、支援員さんを中心にして、個別指導が充実している。
		生徒指導、いじめ対策の組織的な対応と継続的な指導ができていくか	2.8				
		SC関係機関と連携した教育相談の充実ができていくか	2.5				
	特別支援教育の充実	保護者と連携し、個別指導計画の作成が適切になされているか	2.2	2.4			
		組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.5				
		関係機関と連携した相談体制の充実が図られているか	2.4				

※評価は、「3」・よくあてはまる 「2」・あてはまる 「1」・あまりあてはまらない 「0」・あてはまらない